



産経新聞一面トップ記事に続いて 衆議院国土交通委員会で政府、警察庁の見解を求め質疑!

5月9日、衆議院国土交通委員会で斉藤洋明衆議院議員(自民:写真)が、JR東労組がスト権を確立したとの産経新聞の報道に関連し、JR総連及び加盟単組への極左暴力集団・革マル派の浸透問題について、政府及び、警察庁に対する見解を求めた。また、わが国最大の鉄道会社であるJR東日本の労働組合が極左暴力集団の強い影響下にあることに対し、交通政策や国内の治安維持・確保の観点から好ましい状態ではないと指摘した。



自由民主党・無所属の会
齋藤 洋明



同委員会で斉藤議員は、4月18日付の産経新聞朝刊でJR

東労組がスト権を確立したとの報道に関し、過去の政府公式文書や国会答弁でJR総連やJR東労組に革マル派が相当程度浸透しているとの指摘を踏まえ、「革マル派が相当程度JR東労組に浸透しているという過去の回答および政府の報告の認識は現状でも正しいか」と質した。

これに対し、白川靖浩警察庁長官官房審議官(警備局担当)は「平成8年以降、革マル派の非公然アジト28箇所を摘発し、これらのアジトの一部から押収した資料を分析するなどした結果、お尋ねの労働組合に革マル派活動家が影響力を行使しうる立場に相当浸透していると認識しており、その見解に変わりはない」と述べ、引き続きJR総連・JR東労組へ革マル派が相当浸透していると認めた。

また、JR東日本の労働組合が極左暴力集団の強い影響下にあり、交通政策や国内の治安維持・確保の観点から好ましい状態ではない、との指摘に対し、国土交通省の根本幸典国土交通大臣政務官は、「仮に鉄道の安全・安定輸送に関わる問題が生じてくることがあれば、安全・安定輸送を十分に確保することが必要であるとの観点から、適切に対処していくことになる」と答え、鉄道の安全・安定輸送の確保に、今後も適切に対処していくと表明した。

**何度でも言うが、JR革マル派浸透問題は国家治安の問題!
知らない? 知らないふり!では済まされない!!**